

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

山野中学校区	校番 42	福山市立山野小学校
最終更新日		2021年(令和3年)10月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○問題解決力 ○協調性・柔軟性	○幅広い人間関係を築くコミュニケーション力 ○チャレンジ精神
・コロナ禍の中での対応は大変だと思いが概ね達成している。 ・教師等と話す機会が少なかった。 ・地域・保護者と触れ合える機会を大切にしてほしい。	児童の実態に応じた支援を行っている。また、学習内容に合わせた異学年での学びや中学生との交流を行うなど、児童・生徒が協働して学んでいる。児童の主体性を育てる取組を進めているところである。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力として、自ら学び続ける意欲を持った子ども</li> <li>・豊かな心として、相手を尊重し、共に高まり合う子ども</li> <li>・自律として、判断する力と責任ある行動ができる子ども</li> </ul>	
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え、学び合う授業や行事等の取組</li> <li>○個に応じたきめ細かい丁寧な指導の徹底</li> <li>○幅広い思考力や表現力を育成するための思考・表現活動の充実</li> <li>○地域等のふるさと学習の充実</li> </ul>	

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決力	コミュニケーション力	協調性・柔軟性	チャレンジ精神	
地域を生かした学習を教育課程に位置付け、自ら考える授業や行事等に取り組む。また、個に応じた支援を適切に行い、他律から自律の心を育てる。子どものやる気を高め、自己実現に向けて努力する等、地域に誇れる学校となる。	めざす子ども像	1・2年	疑問に対し、自分の考えが持てる。	友だちと仲良くする。	人の話を聞くことができる。	好きなことや得意なことに取り組む。
学校教育目標		3・4年	疑問に対し、様々な考えがあることを知る。	進んで友だちとかかわる。	人の気持ちを知ることができる。	好きなことや得意なことを増やす。
確かな学力と豊かな心を持ち、自らたくましく生きる子どもの育成		5・6年	疑問に対し、いくつかの視点から物事を考えられる。	友だちや地域の人と積極的にかかわる。	人の気持ちになって考えることができる。	好きなことや得意なことを積極的に増やし、自信をつける。
現状	テーマ	少人数での学びの創造 ～幅広い思考力・豊かな表現力の育成～				
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>少人数指導による個に応じたきめ細かい丁寧な指導を通して、学力の定着・向上に取り組んでいる。子どもたちが決めて行動する機会を増やしている。</p> <p>同年代の児童との関わりが少なく、幅広い人間関係づくりや表現力に課題がある。体験活動や地域の方との交流等では、主体者となって取り組む必要がある。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>「少人数の学びの創造」をテーマに、年間を通じて小中合同授業研究に取り組み、同じ研究主題で授業改善を進めている。子どもの学ぶ意欲が高まる授業について研究を進め、子ども自身が学ぶ喜びが持てる授業を行っていく。</p>	研究内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを楽しみ、学びが深まる授業を目指し、子どもが思考・判断・表現できる場の設定と教師の発問の質を追求する。</li> <li>・学習意欲を喚起する手立てや支援についての取組をデータ化する。</li> </ul>				
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自らが主体となって学習を進める。</li> <li>・子どもの学ぶ意欲が高まる授業を子どもとともに作る。</li> <li>・子どもどうしがかかわり、協同して学ぶ授業をめざす。</li> </ul>			

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山野小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2年目	子ども主体の学びに向かった授業等を実践する。	★	継続	子どもの学ぶ意欲を大切に、達成感が持てる授業を実践する。	個々の実態に応じた学習の進捗や課題設定を子どもと話し合い進める。	児童アンケートの肯定的評価80%以上	単元の始めに個々の課題を把握し、課題設定を行った。(75%)	3	2	個々の課題に合わせた学習を進める。単元の始めに子どもと学習内容を共有する。					
1年目	教職員の力を結集し、授業を改善する。	★	新規	ICT等を活用した、分かる・できる授業を実践する。	学習支援や思考ツールのソフトを用いて子どもの探究的な学習が進むように支援する。	児童自らがICTツールを使いこなすことができる。	ICTを用いて、調べ学習や家庭学習等を行う場面を増やした。	3	2	学習のまとめや発信に関する取組を計画・実施する。					
2年目	仲間と共に高まり合う子どもを育てる。		継続	子どもが主役となる総合的な学習の時間や行事等を構築する。	コロナ禍の中で実施可能な山野ならではの体験や行事を実施する。	疑問や驚きを大切にした体験等の活動を行う。	事前に調べ学習を行い、体験等の見通しを持たせた。	3	3	地域学習では、子どもの意欲を大切に体験等を計画・実施する。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。